

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成26年6月19日
【事業年度】	第204期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
【会社名】	攝津製油株式会社
【英訳名】	SETTSU OIL MILL, INC.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 二ノ宮 義 治
【本店の所在の場所】	大阪市福島区野田六丁目2番39号 (上記は登記上の本店所在地であり、実際の業務は下記の場所で行っております。)
【電話番号】	—
【事務連絡者氏名】	—
【最寄りの連絡場所】	大阪府堺市西区築港新町一丁目5番地10
【電話番号】	072-280-2650
【事務連絡者氏名】	執行役員 総務部長 山 本 信 秀
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第200期	第201期	第202期	第203期	第204期
決算年月		平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
売上高	(千円)	9,216,610	9,705,035	9,638,947	9,484,854	9,616,642
経常利益	(千円)	356,078	374,477	368,536	361,266	419,294
当期純利益	(千円)	203,701	175,482	191,870	219,942	261,989
持分法を適用した場合の 投資損益	(千円)	—	—	—	—	—
資本金	(千円)	1,299,104	1,299,104	1,299,104	1,299,104	1,299,104
発行済株式総数	(千株)	12,222	12,222	12,222	12,222	12,222
純資産額	(千円)	3,180,125	3,322,620	3,475,246	3,665,782	3,883,277
総資産額	(千円)	5,647,105	5,998,110	6,180,939	6,433,391	6,402,819
1株当たり純資産額	(円)	260.51	272.21	284.73	300.37	318.23
1株当たり配当額 (1株当たり中間配当額)	(円)	4.00 (—)	4.00 (—)	4.00 (—)	4.00 (—)	4.00 (—)
1株当たり 当期純利益金額	(円)	16.69	14.38	15.72	18.02	21.47
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額	(円)	—	—	—	—	—
自己資本比率	(%)	56.3	55.4	56.2	57.0	60.6
自己資本利益率	(%)	6.5	5.4	5.6	6.2	6.9
株価収益率	(倍)	22.5	24.0	24.5	25.0	17.0
配当性向	(%)	24.0	27.8	25.4	22.2	18.6
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	320,440	336,972	455,629	269,464	56,843
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△114,384	△108,684	△249,045	△198,059	14,530
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	△210,837	△228,059	△207,745	△71,775	△71,275
現金及び現金同等物の 期末残高	(千円)	34,148	34,376	33,214	32,844	32,942
従業員数	(名)	159	161	166	160	160

- (注) 1 売上高には消費税等は含まれておりません。
 2 当社は連結財務諸表を作成しておりませんので「連結経営指標等」については記載しておりません。
 3 持分法を適用した場合の投資損益については、関連会社がないため記載しておりません。
 4 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

明治22年 5 月 (1889年)	有限責任 攝津製油会社を設立。大阪市内で製油業を開始。
明治26年 1 月 (1893年)	株式会社に改組し攝津製油株式会社となる。
昭和 4 年10月 (1929年)	石鹼の製造開始。
昭和24年 5 月 (1949年)	大阪証券取引所に株式上場。
〃 10月 (〃)	合成洗剤の製造を開始。
昭和34年 1 月 (1959年)	日清製油株式会社(現 日清オイリオグループ株式会社)と業務提携。
昭和42年 5 月 (1967年)	化粧品製造業許可。
昭和46年 7 月 (1971年)	JAS(植物油脂)認定工場となる。
昭和48年 1 月 (1973年)	花王石鹼株式会社(現 花王株式会社)と業務提携。
〃 7 月 (〃)	不動産賃貸業務を開始。
昭和52年 8 月 (1977年)	食用油精製工場拡大新設、粉末洗剤ドライブレンド工場拡大新設。
昭和53年 5 月 (1978年)	JIS表示(合成洗剤)許可工場となる。
昭和54年 3 月 (1979年)	東京出張所開設。同59年 4 月営業所に昇格。
昭和59年 4 月 (1984年)	子会社 株式会社ビューティーを設立。
平成元年 5 月 (1989年)	創立満100周年を迎える。
〃 (〃)	医薬部外品製造業許可。
平成 2 年 4 月 (1990年)	西日本日清物流株式会社を吸収合併、物流業務を開始。
平成 3 年 4 月 (1991年)	7 階建複合ビル新設。
平成 6 年 4 月 (1994年)	パーム油精製設備新設。
〃 10月 (〃)	化成品葉粧工場の新設。
平成10年 3 月 (1998年)	日清製油株式会社神戸工場の土地・建物を購入。
平成11年 3 月 (1999年)	神戸事業場開設。
平成12年 3 月 (2000年)	堺事業所開設。
〃 12月 (〃)	本社・工場が、国際的な品質マネジメントシステムである「ISO9001」の認証工場(化成品)となる。
平成14年 3 月 (2002年)	堺事業所が、国際的な品質マネジメントシステムである「ISO9002」の認証工場(油脂)となる。
平成15年 6 月 (2003年)	神戸事業場を廃止。
〃 10月 (〃)	工場を大阪府堺市へ移転。(堺事業所化成品工場の工場操業開始)
平成16年 4 月 (2004年)	本社を当社所有の7 階建複合ビルに移転。
平成17年 1 月 (2005年)	有機精製設備(油脂工場)の認定取得。
平成18年 3 月 (2006年)	子会社 株式会社ビューティーを清算。
〃 6 月 (〃)	国際的な環境マネジメントシステムである「ISO14001」の認証を取得。(化成品工場)
平成22年 9 月 (2010年)	本社機能を堺事業所化成品工場内へ移転。

平成25年7月 東京証券取引所と大阪証券取引所の市場統合に伴い、東京証券取引所に株式上場(市場第
 (2013年) 二部)。

3 【事業の内容】

当社の企業集団は、当社、親会社および関連当事者(主要株主)1社で構成され、油脂および化成品の製造販売を主な内容とし、さらに、物流業務および各事業に関連するその他のサービス等の事業活動を展開しております。

(1) 企業集団等において営まれている主な事業の内容

セグメント	内容
油脂事業	コーン油・大豆油・米油・ぶどう油・ひまわり油・なたね油等、各種植物油の精製・充填・販売
化成品事業	家庭用・業務用・工業用各種洗剤及び化粧品・医薬部外品、殺菌洗浄剤等、各種界面活性剤の製造販売
その他	保管荷役・配送及び各種詰合せセット・包装等の流通加工、マンション賃貸、包装資材等の販売他

(2) 当社の企業集団等の当該事業にかかわる位置づけ

〔油脂事業〕

当社が精製・充填・販売するほか、親会社日清オイリオグループ株式会社に販売しております。また、親会社日清オイリオグループ株式会社より原材料の仕入等を行っております。

〔化成品事業〕

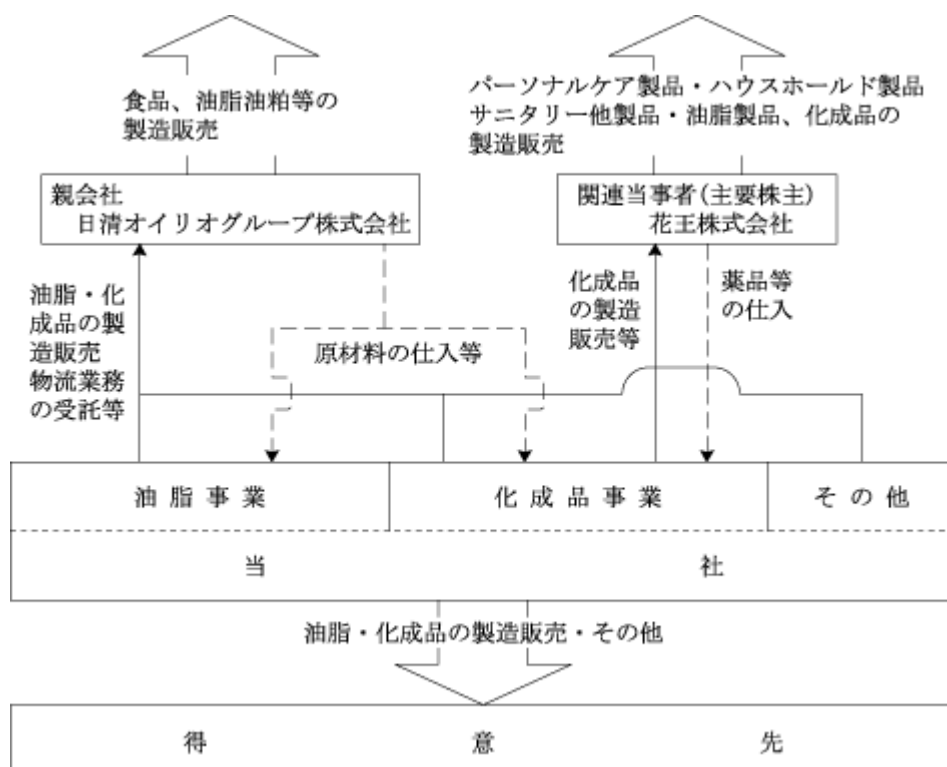
当社が製造販売するほか、親会社日清オイリオグループ株式会社、関連当事者(主要株主)花王株式会社に販売しております。また、関連当事者(主要株主)花王株式会社より薬品等を仕入れております。

〔その他〕

当社が流通加工業務を行うほか、親会社日清オイリオグループ株式会社の各種詰合せセット・包装等の流通加工業務を行っており、また、当社がマンションの賃貸業、包装資材等の販売などを行っております。

なお、上記の油脂事業及び化成品事業は、セグメントの区分と同一であります。

事業の系統図は次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

平成26年3月31日現在

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の被所有 割合(%)	関係内容
(親会社) 日清オイリオグループ(株)	東京都中央区	16,332,128	食品、油脂、 油粕等の 製造販売	53.8 (1.9)	原材料の仕入等 油脂、化成品の製造販売、 物流業務の受託等 資金の調達・運用 役員の兼任・・・3人

- (注) 1 有価証券報告書を提出しております。
 2 議決権の被所有割合の()内は、間接被所有割合を内書きしております。

5 【従業員の状況】

(1) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数	平均年齢	平均勤続年数	平均年間給与
160名	40歳6か月	11年0か月	6,082千円

セグメントの名称	従業員数
油脂事業	81名
化成品事業	64名
その他	6名
全社(共通)	9名
合計	160名

- (注) 1 従業員数は、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。
 2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
 3 全社(共通)は、総務及び財務等の管理部門の従業員であります。

(2) 労働組合の状況

当社の労働組合は、昭和21年6月に結成され、組合員数は平成26年3月31日現在で60名であります。組合との関係は、円満に推移しております。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当事業年度のわが国経済は、第2次安倍内閣の経済政策による好況感があるものの、為替や株式相場とも不安定な様相を呈しており、欧州経済の動向や新興国経済の成長鈍化傾向等海外情勢への懸念に加え、消費税増税後の影響も含めて、先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

こうした経済環境のなかで当社は、化成品事業における安定的な事業収益を生み出す事業構造変革への取組み、油脂事業における適正な利益を確保できる体制の構築に注力し、さらに、工場におけるコスト競争力・購買力・生産技術力及び品質保証体制の強化などの経営基盤の安定・強化に引き続き取り組んでまいりました。

当事業年度の業績は、売上高では、油脂事業は減少したものの、化成品事業が増加し、96億16百万円（前年同期比1.4%増）となりました。

また、利益面では、油脂事業及び化成品事業におけるOEMの売上高が減少したものの、化成品事業における業務品及び業務提携先OEMの売上高の増加、減価償却方法の変更による影響や原価低減効果等もあり、営業利益は4億6百万円（前年同期比16.7%増）、経常利益は4億19百万円（前年同期比16.1%増）、当期純利益は2億61百万円（前年同期比19.1%増）となりました。

セグメントごとの業績を示すと、次のとおりであります。

(油脂事業)

当社の油脂事業は、精製受託、業務用斗缶販売、小瓶充填・小ロット精製から構成されています。

精製受託は、コーン油の受託量は前期に比べて増加したものの、なたね油の受託量は減少し、売上高は前年同期を下回りました。

業務用斗缶販売は、原材料価格が小刻みに変動し、価格改定が計画通り進まないなかで、可能な限り製品価格の是正に努めつつ、販売数量の確保にも注力したものの、売上高は前年同期を下回りました。

小瓶充填・小ロット精製は、自社プレミアムオイルの販売量が伸び悩んだほか、OEM品の受託も減少し、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、油脂事業の売上高は、46億4百万円で、前年同期比4.0%減となりました。セグメント利益は、2億71百万円で、前年同期比7.3%減となりました。

(化成品事業)

当社の化成品事業は、自社業務品、OEM及び業務提携先OEMから構成されています。

自社業務品は、外食店、食品加工工場向けに中性洗剤、厨房機器用洗浄剤や殺菌洗浄剤の拡販を行ってきました。主に殺菌洗浄剤を中心とした食品加工工場向けのサニテーション提案に努めております。当事業年度においては、外食産業、食品加工工場の衛生管理に貢献できる抗菌剤及びフライヤー用洗浄剤が寄与し、売上高は前年同期を上回りました。

OEMは、新規OEMが獲得できたものの、既存の量販店や生協向けのハウスホールド製品を始めとして、OEMの受託は全般的に低迷し、売上高は前年同期を下回りました。

業務提携先OEMは、ケミカル関連商品、業務用関連商品及び家庭用自動食器洗浄機用洗剤の受託が好調に推移し、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、化成品事業の売上高は、46億57百万円で、前年同期比7.4%増となりました。セグメント利益は、6億87百万円で、前年同期比11.0%増となりました。

(その他)

その他については、物流業務における流通加工受託業務が減少し、前年同期を下回りました。

以上の結果、その他の売上高は、3億54百万円で、前年同期比0.1%減となりました。セグメント利益は、1億29百万円で、前年同期比6.0%減となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当事業年度末における現金及び現金同等物の残高は、ほぼ前事業年度末並みの32百万円となりました。

当事業年度に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、56百万円の収入となりました。主な資金増加の要因は、税引前当期純利益4億18百万円、減価償却費1億27百万円、一方主な資金減少の要因は、仕入債務の減少額1億32百万円、法人税等の支払額1億50百万円などであります。なお、前年同期との比較においては、税引前当期純利益、減価償却費、引当金、売上債権、たな卸資産、仕入債務、その他負債、法人税等の支払額などの増減により営業活動によるキャッシュ・フローは2億12百万円の収入減となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、14百万円の収入となりました。資金増加の要因は貸付けの回収による収入76百万円、一方資金減少の要因は、固定資産の取得による支出62百万円であります。なお、前年同期との比較においては、有形固定資産の取得による支出と短期貸付金の貸付による支出の減少により投資活動によるキャッシュ・フローは2億12百万円の支出減となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、71百万円の支出となりました。これは主に、配当金の支払いによる支出及びリース債務の返済による支出によるものであります。なお、前年同期との比較においては、ほぼ同額の支出となりました。

	前事業年度(百万円)	当事業年度(百万円)	増減(百万円)
営業活動によるキャッシュ・フロー	269	56	△212
投資活動によるキャッシュ・フロー	△198	14	212
財務活動によるキャッシュ・フロー	△71	△71	0
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△0	0	0
現金及び現金同等物の期末残高	32	32	0

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当事業年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産数量(屯)	前年同期比(%)
油脂事業	10,560	△4.9
化成品事業	27,865	+2.6

(2) 受注実績

当社は受注生産を行っておりません。

(3) 販売実績

当事業年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同期比(%)
油脂事業	4,604,656	△4.0
化成品事業	4,657,936	+7.4
その他	354,049	△0.1
合計	9,616,642	+1.4

(注) 1 販売実績は純売上高であります。

2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		相手先	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
	販売高(千円)	割合(%)		販売高(千円)	割合(%)
花王(株)	2,732,358	28.8	花王(株)	3,038,251	31.6
日清オイリオグループ(株)	2,568,455	27.1	日清オイリオグループ(株)	2,456,188	25.5

3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

油脂事業では、業務用斗缶販売において適正な利益を確保しつつ、販売量の拡大に取組み、小瓶小ロット精製設備等を活用した付加価値商品、差別化商品の開発に努め、新規分野への事業展開を進めます。

化成品事業では、安定的な事業収益を生み出す事業基盤の強化へ向けた取組みを図ります。

①自社業務品においては、末端志向型のカテゴリー別、チャネル別販売戦略の実践を目指す。

②次代の中核事業として、事業基盤の確立を進める工業用洗浄剤分野での早期の収益化を目指す。

③研究開発では、衛生管理技術・ノウハウの深化・拡大と、利益商材化の迅速化を目指す。

さらに、工場におけるコスト競争力・購買力・生産技術力及び品質保証体制の強化を図り、効率的な経営体制を構築し、リスク管理体制の強化を進めます。

以上を確実に実行することにより、経営基盤の安定・強化に向けて、引き続き努力してまいり所存であります。

4 【事業等のリスク】

当社の経営成績および財務状況等に影響を及ぼす可能性があると考えられる主な事項は以下のようなものです。

なお、将来に関する事項は、当事業年度末現在において判断したものであり、事業等のリスクはこれらに限られるものではありません。

(1) 原材料価格の変動に関するリスク

油脂の原材料である大豆・菜種等の仕入れおよび、化成品の原材料である石油化学製品や植物油脂等の仕入れ価格については、国際市況の影響により原材料価格の変動リスクを有しております。原材料価格の高騰が、当社の業績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(2) 製品市場の変動に関するリスク

油脂事業および化成品事業の販売環境は、価格競争が激しい業界であり、OEM顧客の調達方針の変化や大口顧客の要求に応じるための値下げ等による影響を受ける可能性があり、当社の業績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(3) 地震等による自然災害に関するリスク

当社の製品を製造する工場や物流拠点などの施設において、地震・台風等の自然災害や、突発的な災害・事故による災害等が発生した場合、設備の損傷および棚卸資産の破損等の被害をこうむる可能性があり、当社の業績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(4) 法的規制に関するリスク

当社は、食品衛生法、薬事法、下請法、個人情報保護法など各種法規制の適用を受けております。当社においては企業倫理委員会を中心に法令遵守と社会倫理の遵守を企業活動の原点とすることを徹底しています。しかし今後、万一これらの規制を遵守できなかった場合、企業の社会的信頼の低下や損害賠償など多額の費用負担を招く可能性があり、当社の業績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(5) 固定資産の減損会計に関するリスク

固定資産の減損に係る会計基準および適用指針により、将来において所有する固定資産に損失が発生した場合には、当社の業績および財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社は清潔で快適な暮らしに欠かせない製品やレストランの厨房、食品工場などの衛生管理に役立つ多様な製品づくりに積極的に取り組んでおり、お客様のニーズを確実に製品化するための研究開発活動を展開しております。

なお、当事業年度における研究開発費の総額は1億48百万円であります。

セグメントごとの研究開発活動を示すと次のとおりであります。

（油脂事業）

油脂研究では、健康と安全性へのニーズがますます高まる中で、さらに差別化された高付加価値な食用油脂の開発を継続すると共に、化粧品基剤や健康食品油脂の開発にも取り組んでおります。

なお、当事業年度における研究開発費は3百万円であります。

（化成事業）

化成品の業務品分野では、食品加工工場の菌汚染の実態調査の実践と、設備機器の洗浄や除菌を効果的に行うためのサニテーション商品の開発に注力しております。具体的には食品工場や食肉加工工場等での現場調査データ(手指、設備、備品)に基づき、菌汚染防止に向けた最適洗浄条件を設定し、衛生管理マニュアルの提示を行い、洗浄剤・除菌洗浄剤を提供する活動を推進しております。また、衛生管理に関する科学的な検証にも取り組んでおり、一連の活動の成果の一部を学会発表（口頭発表）いたしました（日本食品微生物学会平成25年10月4日於東京）。

OEM事業関連では、ご家庭で使用する洗浄剤や化粧品、医薬部外品等の香粧品の分野でお客様のニーズに対応し差別化された機能を持った製品の改良や開発を行っております。また、業務用用途で使用する各種洗浄剤や、クリーニング分野で使用される洗剤（液体、粉末）の高機能化技術の開発研究を行っております。

工業用分野では、次代の中核事業として洗浄剤と金属エッチング剤の基盤確立に注力しております。前者では太陽電池用シリコンウエハーや新素材ウエハー用の洗浄剤を重点に開発を進めており、国内・海外への拡販にも注力中であります。また中国で開催（平成25年11月）された太陽電池に関する国際会議で“洗浄剤と表面解析技術”に関し招待講演を行い積極的な技術交流も推進しております。後者のエッチング剤開発では太陽電池用に注力いたしました。この技術は大手顧客にて実機試験を行う段階にあり、早期の実績化を目指しております。上記テーマは、いずれも“要素技術の開発”と“量産現場への適用ノウハウ”がキーワードとなっており、年々高度化する要求機能とコスト削減に貢献できる高付加価値型製品の提供を目指しております。

なお、当事業年度における研究開発費は1億44百万円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当事業年度のわが国経済は、第2次安倍内閣の経済政策による好況感があるものの、為替や株式相場とも不安定な様相を呈しており、欧州経済の動向や新興国経済の成長鈍化傾向等海外情勢への懸念に加え、消費税増税後の影響も含めて、先行きは依然として不透明な状況で推移しております。

こうした経済環境のなかで当社は、化成品事業における安定的な事業収益を生み出す事業構造変革への取組み、油脂事業における適正な利益を確保できる体制の構築に注力し、さらに、工場におけるコスト競争力・購買力・生産技術力及び品質保証体制の強化などの経営基盤の安定・強化に引き続き取り組んでまいりました。

当事業年度の業績は、売上高では、油脂事業は減少したものの、化成品事業が増加し、96億16百万円（前年同期比1.4%増）となりました。

また、利益面では、油脂事業及び化成品事業におけるOEMの売上高が減少したものの、化成品事業における業務品及び業務提携先OEMの売上高の増加、減価償却方法の変更による影響や原価低減効果等もあり、営業利益は4億6百万円（前年同期比16.7%増）、経常利益は4億19百万円（前年同期比16.1%増）、当期純利益は2億61百万円（前年同期比19.1%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(流動資産)

当事業年度末における流動資産は、前事業年度末に比べ84百万円増加し、31億93百万円となりました。これは主に、受取手形の増加28百万円、売掛金の増加31百万円、商品及び製品の増加20百万円、原材料及び貯蔵品の増加32百万円、短期貸付金の減少76百万円、その他の増加49百万円などによるものであります。

(固定資産)

当事業年度末における固定資産は、前事業年度末に比べ1億15百万円減少し、32億9百万円となりました。これは主に、有形固定資産の減少1億6百万円、無形固定資産の減少17百万円、投資その他の資産の増加8百万円によるものであります。

(流動負債)

当事業年度末における流動負債は、前事業年度末に比べ2億46百万円減少し、20億86百万円となりました。これは主に、買掛金の減少1億26百万円、未払金の減少76百万円、その他の減少46百万円などによるものであります。

(固定負債)

当事業年度末における固定負債は、前事業年度末に比べ1百万円減少し、4億32百万円となりました。これは主に、リース債務の減少5百万円、退職給付引当金の増加26百万円、役員退職慰労引当金の減少22百万円などによるものであります。

(純資産)

当事業年度末における純資産は、前事業年度末に比べ2億17百万円増加し、38億83百万円となりました。これは主に、利益剰余金の増加2億13百万円などによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの分析

当事業年度末における現金及び現金同等物の残高は、ほぼ前事業年度末並みの32百万円となりました。

当事業年度に係る区分ごとのキャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における営業活動によるキャッシュ・フローは、56百万円の収入となりました。主な資金増加の要因は、税引前当期純利益4億18百万円、減価償却費1億27百万円、一方主な資金減少の要因は、仕入債務の減少額1億32百万円、法人税等の支払額1億50百万円などであります。なお、前年同期との比較においては、税引前当期純利益、減価償却費、引当金、売上債権、たな卸資産、仕入債務、その他負債、法人税等の支払額などの増減により営業活動によるキャッシュ・フローは2億12百万円の収入減となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における投資活動によるキャッシュ・フローは、14百万円の収入となりました。資金増加の要因は貸付けの回収による収入76百万円、一方資金減少の要因は、固定資産の取得による支出62百万円であります。なお、前年同期との比較においては、有形固定資産の取得による支出と短期貸付金の貸付による支出の減少により投資活動によるキャッシュ・フローは2億12百万円の支出減となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当事業年度における財務活動によるキャッシュ・フローは、71百万円の支出となりました。これは主に、配当金の支払いによる支出及びリース債務の返済による支出によるものであります。なお、前年同期との比較においては、ほぼ同額の支出となりました。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社の当事業年度において実施いたしました設備投資の総額は37百万円であり、主なものは次のとおりであります。

セグメント	事業所	内容	投資金額(千円)	完成後の増加能力
化成品事業	堺事業所化成品工場	製造・充填包装設備等	24,972	設備更新・品質向上・効率化を図るため、能力の増加は殆どありません。

また、重要な設備の除却または売却はありません。

2 【主要な設備の状況】

平成26年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
			建物及び 構築物	機械装置 及び運搬具	土地 (面積㎡)	リース 資産	その他	合計	
堺事業所 油脂工場 (大阪府堺市西 区)	油脂事業 その他	生産設備他	1,474	11,319	— (—) (注2) [10,933]	1,533	0	14,327	78
堺事業所 化成品工場 (大阪府堺市西 区)	化成品事業 その他 全社(共通)	生産設備他	(注3) 475,030	(注3) 156,899	(注3) 1,913,641 (32,367)	41,465	28,985	2,616,021	48
堺事業所 本社事務所 (大阪府堺市西 区)	油脂事業 化成品事業 全社(共通)	販売業務他 本社機能他	56,307	—	—	—	228	56,536	27
本社複合ビル (大阪市福島区)	その他 全社(共通)	その他設備 福利厚生設 備他	228,767	124	92 (477)	—	82	229,067	—

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、「工具、器具及び備品」及び「建設仮勘定」であります。

2 []内数字は借用分面積を示し、外書きしております。

3 取得価額から圧縮記帳額(建物938,616千円、機械及び装置1,012,853千円、土地748,658千円)を直接控除しております。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

特記事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

特記事項はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年6月19日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,222,080	12,222,080	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数は1,000株であります。
計	12,222,080	12,222,080	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成2年4月1日	142,080	12,222,080	7,104	1,299,104	93,096	1,165,353

(注) 西日本日清物流株式会社との合併による増加

合併登記日 平成2年6月29日

合併比率 西日本日清物流株式会社の株式(1株の額面金額50,000円)1株につき当社の株式(1株の額面金額50円)222株の割合

(6) 【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	8	2	72	2	—	375	459	—
所有株式数 (単元)	—	1,133	2	9,865	3	—	1,182	12,185	37,080
所有株式数 の割合(%)	—	9.30	0.02	80.96	0.02	—	9.70	100.00	—

(注) 自己株式19,303株は、「個人その他」の欄に19単元、「単元未満株式の状況」の欄に303株、それぞれ含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日清オイリオグループ株式会社	東京都中央区新川一丁目23-1	6,311	51.64
花王株式会社	東京都中央区日本橋茅場町一丁目14-10	1,364	11.16
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7-1	604	4.94
攝津製油取引先持株会	大阪府堺市西区築港新町一丁目5-10	452	3.69
三井食品株式会社	東京都中央区八重洲二丁目7-2	343	2.80
伊藤忠食品株式会社	大阪市中央区城見二丁目2-22	299	2.44
日清商事株式会社	東京都中央区新川一丁目16-4	208	1.70
三井住友信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内一丁目4-1	180	1.47
株式会社榎本武平商店	東京都江東区新大橋二丁目5-2	152	1.24
幸商事株式会社	東京都中央区新川一丁目17-25	136	1.12
計	—	10,052	82.24

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 19,000	—	権利内容に何ら限定のない当社 における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式12,166,000	12,166	同上
単元未満株式	普通株式 37,080	—	同上
発行済株式総数	12,222,080	—	—
総株主の議決権	—	12,166	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式303株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 攝津製油株式会社	大阪市福島区野田 六丁目2-39	19,000	—	19,000	0.1
計	—	19,000	—	19,000	0.1

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	1,287	496
当期間における取得自己株式	—	—

(注) 「当期間における取得自己株式」欄には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(一)	—	—	—	—
保有自己株式数	19,303	—	19,303	—

(注) 当期間における「保有自己株式数」欄には、平成26年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、収益の向上、経営基盤の強化を目指しながら安定的に配当を行うことを基本方針としております。

当社は、期末配当1回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、その決定機関は株主総会であります。また、当社は、「取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、安定配当の基本方針のもと当社をとりまく経営環境等を勘案いたしまして、中間配当は見送り、期末配当は1株につき4円といたしました。

この結果、配当性向は18.6%となっております。

内部留保資金につきましては、経営体質の強化及び将来の事業展開に備えることとしたいと存じます。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たりの配当額(円)
平成26年6月18日 定時株主総会決議	48,811	4

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第200期	第201期	第202期	第203期	第204期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	400	400	415	605	440
最低(円)	337	320	338	380	362

(注) 最高・最低株価は、平成25年7月16日より東京証券取引所市場第二部におけるものであり、それ以前は大阪証券取引所市場第二部におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	11月	12月	平成26年1月	2月	3月
最高(円)	382	375	373	378	377	378
最低(円)	363	367	364	369	367	364

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第二部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長		二ノ宮 義 治	昭和30年5月12日生	昭和53年4月 平成16年6月 平成21年6月 平成22年6月	日清製油㈱〔現社名日清オイリオ グループ㈱〕入社 同社取締役 同社取締役常務執行役員生産管 掌、財務・経理担当 当社取締役社長(現任) 当社代表取締役(現任)	(注) 3	10
取締役	油脂事業 兼 化 成品事業担当	山 田 洋 一	昭和30年10月4日生	昭和54年4月 平成19年6月 平成23年6月 平成25年6月	日清製油㈱〔現社名日清オイリオ グループ㈱〕入社 同社関東信越支店長 当社顧問 当社取締役(現任) 当社油脂事業 兼 化成品事業担当 (現任)	(注) 3	—
取締役	商品開発研究 兼 化成品環 境・品質保証担 当	横 田 行 永	昭和25年10月10日生	昭和48年4月 平成11年7月 平成19年4月 平成22年1月 平成22年2月 平成22年3月 平成22年7月 平成24年7月 平成25年6月 平成26年6月	花王石鹼㈱〔現社名花王㈱〕入社 同社ハウスホールド研究所主席研 究員 同社T C R推進室室長 同社退職 当社参与社長付 当社参与商品開発研究室長 当社理事商品開発研究室長 兼 化 成品品質管理室長 当社理事商品開発研究室長 兼 化 成品品質管理室担当 当社取締役(現任) 当社商品開発研究 兼 化成品環 境・品質保証担当(現任)	(注) 3	2
取締役	化成品生産 兼 総務担当	大 前 敏 和	昭和37年4月15日生	昭和60年4月 平成23年4月 平成23年7月 平成25年6月 平成26年6月	当社入社 当社理事 当社理事堺事業所化成品工場長 当社取締役(現任) 当社化成品生産 兼 総務担当(現 任)	(注) 3	4
取締役		常 盤 文 克	昭和8年11月13日生	昭和32年4月 平成2年6月 平成3年6月 平成9年6月 平成12年6月 平成15年3月	花王石鹼㈱〔現社名花王㈱〕入社 同社取締役社長 当社取締役(現任) 花王㈱取締役会長 同社特別顧問 同社特別顧問退任	(注) 3	—
取締役		今 村 隆 郎	昭和24年1月8日生	昭和46年4月 平成16年7月 平成17年6月 平成20年6月 平成23年6月 平成23年6月	日清製油㈱〔現社名日清オイリオ グループ㈱〕入社 同社専務取締役 当社監査役 日清オイリオグループ㈱代表取締 役(現任) 当社取締役(現任) 日清オイリオグループ㈱取締役社 長(現任)	(注) 3	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役		瀬戸 明	昭和28年8月17日生	昭和53年4月 平成12年6月 平成13年6月 平成16年7月 平成23年6月 平成23年6月 平成25年6月	日清製油㈱〔現社名日清オイリオグループ㈱〕入社 同社執行役員 同社取締役 同社常務取締役 当社取締役(現任) 日清オイリオグループ㈱取締役(現任) 同社専務執行役員(現任)	(注) 3	—
常勤監査役		東 勝 男	昭和28年11月18日生	昭和47年3月 平成21年7月 平成23年4月 平成23年7月 平成25年6月	当社入社 当社化成品事業部部長 当社理事 当社理事化成品事業部部長 当社常勤監査役(現任)	(注) 4	2
監査役		太田良 猛	昭和30年6月26日生	昭和54年4月 平成16年12月 平成18年1月 平成25年6月	日清製油㈱〔現社名日清オイリオグループ㈱〕入社 同社財務部長 同社理事財務部長(現任) 当社監査役(現任)	(注) 4	—
監査役		小 林 新	昭和36年5月26日生	昭和60年4月 平成16年7月 平成21年5月 平成26年4月 平成26年6月	日清製油㈱〔現社名日清オイリオグループ㈱〕入社 同社理事人事・総務部長 同社執行役員 同社常務執行役員(現任) 当社監査役(現任)	(注) 5	—
計							18

- (注) 1 取締役 常盤文克、今村隆郎、瀬戸明は社外取締役であります。
- 2 監査役 太田良猛、小林新は社外監査役であります。
- 3 取締役の任期は、平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 4 監査役 東勝男、太田良猛の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 5 監査役 小林新の任期は、平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。
- 6 当社は、法令に定める監査役の数に欠けることになる場合に備え、会社法第329条第2項に定める補欠監査役1名を選任しております。補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
山 本 純	昭和36年12月26日生	昭和60年4月 平成12年7月 平成26年4月	日清製油㈱〔現社名日清オイリオグループ㈱〕入社 同社財務部主管 同社加工用事業部マネジャー(現任)	(注)	—

- (注) 補欠監査役の任期は、就任した時から退任した監査役の任期満了の時までであります。
- なお、山本純は、社外監査役の要件を満たしております。

- 7 当社は執行役員制度を導入しており、社長執行役員1名、執行役員7名の計8名で構成されております。

(役名)	(氏名)	(担当職務)
社長執行役員	二ノ宮 義 治	
執行役員	山 田 洋 一	油脂事業部長 兼 化成品事業部担当
執行役員	横 田 行 永	商品開発研究室長 兼 化成品環境・品質保証室担当
執行役員	大 前 敏 和	堺事業所化成品工場長 兼 総務部、企業倫理、安全衛生防災担当
執行役員	山 本 信 秀	総務部長 兼 経営企画室長、業務監査室長
執行役員	山 本 裕 三	工業用事業開発室長
執行役員	伏 原 英 郎	堺事業所油脂工場長
執行役員	青 木 隆	化成品事業部長

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① 企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要

当社は、従来から少数の取締役による迅速な意思決定と取締役会の活性化を目指すとともに、取締役の相互監視とコンプライアンスの徹底をはかってまいりました。また、監査役は、取締役会決議その他において行われる取締役の意思決定に関する監査を強化し、必要に応じて監査役会の意見を表明しております。

なお、会社情報の開示につきましては、経営の透明性と公正な情報開示に努めております。

ロ 体制を採用する理由

当社は、取締役会、監査役会、業務監査室の機能を充実することにより、経営および業務執行の健全性・アカウンタビリティは確保できると考えており、現状の体制が最適であると判断しております。

ハ 会社の機関の内容

当社の取締役会は、取締役7名(うち社外取締役3名)で構成し、定例取締役会のほか、必要に応じ機動的に臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項を決定すると共に、業務執行の状況を逐次監督しております。

また、事業変化に迅速かつ柔軟に対応すべく、取締役会の他に執行役員会・経営会議を開催し、経営の基本戦略を討議しております。

監査役会は、監査役3名(うち社外監査役2名)で構成しており、監査役は、監査役会で策定された監査方針、監査計画および業務分担に基づき、取締役会やその他重要な会議への出席や、業務および財産の状況調査等を通じて、取締役の業務執行を監査しております。

監査役、業務監査室、会計監査人は、緊密な連携を保ち、意見および情報の交換を行い、効果的・効率的な監査を実施しております。

ニ 内部統制システムの整備の状況

a 経営組織戦略

当社の取締役会は、社外取締役3名を含む7名で構成されております。当社の監査役会は、社外監査役2名を含む3名で構成されております。

代表取締役は、経営計画に基づいた各部門の目標に対し、職務執行が効率的に行われるよう監督します。各部門担当取締役は、経営計画に基づいた各部門が実施すべき具体的な施策および効率的な業務遂行体制を決定し、その遂行状況を取締役に定期的に報告し、施策および効率的な業務遂行体制を阻害する要因の分析とその改善を図っていきます。

b コンプライアンスの体制

「取締役倫理規程」を定め、法令遵守と社会倫理の遵守を企業活動の原点とすることを徹底しています。また、取締役会の諮問機関として企業倫理担当取締役を委員長とする企業倫理委員会を設置し、全社的な企業倫理、企業の社会的責任の推進にあたります。また、行動の基準、規範を示した「日清オイリオグループ行動規範」に基づき、職制を通じて適正な業務執行の徹底と監督を行うとともに、必要に応じて教育・啓蒙を行います。企業倫理委員会、業務監査室および監査役は、平素より連携し、全社のコンプライアンス体制の確保を図ります。

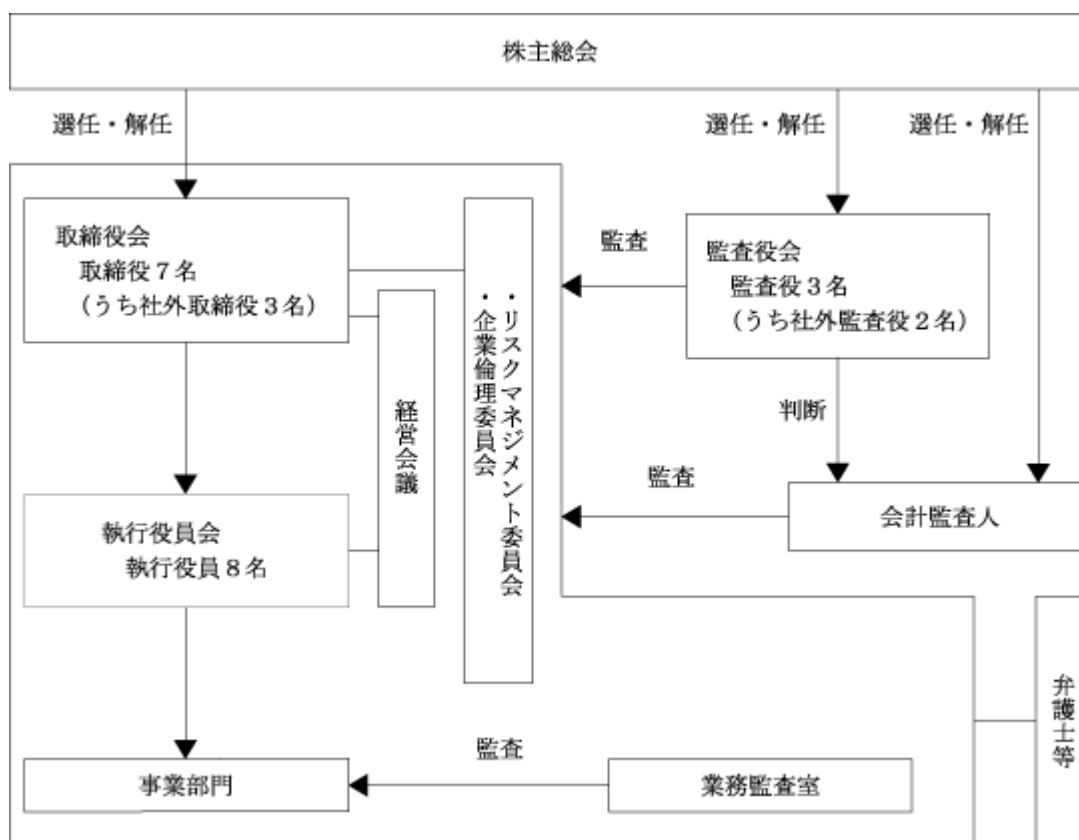
c 当社および親会社からなる企業集団における業務の適正性の確保

グループ行動規範に従い、業務の適正を確保しつつ、親会社である日清オイリオグループ株式会社との連携・情報共有を図っていきます。

d 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方および整備状況

反社会的な勢力や不当な圧力に対しては「日清オイリオグループ行動規範」の定めのとおり、必要な場合には法的措置を前提として、屈することなく毅然とした態度で臨みます。

当社のコーポレート・ガバナンス体制の模式図は次のとおりであります。



ホ リスク管理体制の整備状況

社内規程を定めリスク管理体制の整備を進め、当社を取り巻くリスクを特定したうえで適切なリスク対応を図ります。また、リスクマネジメント委員会へリスク情報を集約し、職務執行への活用を図るとともに、緊急事態が生じた場合の危機管理体制を整備します。

② 内部監査及び監査役監査

当社は内部監査部門として「業務監査室」(2名)を設置しております。監査役と業務監査室は密接に連携しながら、効果的・効率的な監査を実施する体制としております。また、監査役は業務監査室を監査の対象部門としております。

監査役会は、監査役3名(うち社外監査役2名)で構成しており、監査役は、監査役会で策定された監査方針、監査計画および業務分担に基づき、取締役会やその他重要な会議への出席や、業務および財産の状況調査等を通じて、取締役の業務執行を監査しております。

監査役、業務監査室、会計監査人は、緊密な連携を保ち、意見および情報の交換を行い、効果的・効率的な監査を実施しております。

社外監査役は、日清オイリオグループ株式会社において、長年財務・経理業務に従事し、財務及び会計に関する相当程度の知見を有するもの並びに経営者経験の豊富な知見と見識を有するものを選任し、監査機能強化を図っております。

③ 社外取締役及び社外監査役

イ 社外取締役及び社外監査役の員数並びに社外取締役及び社外監査役と当社との人的・資金的・取引関係及びその他の利害関係

当社の社外取締役は3名、社外監査役は2名であります。

社外取締役常盤文克氏は、当社の主要株主である花王株式会社の取締役でありましたが、退任して相当年数を経過しており、一般株主と利益相反の生じるおそれがないと判断しております。当社と同社は化成製品等の売買取引があります。また、現在は三菱地所株式会社の社外取締役ですが、当社と同社との間には取引関係はありません。

社外取締役今村隆郎氏は、親会社である日清オイリオグループ株式会社の代表取締役であり、当社と同社は油脂製品等の売買および資金調達・運用取引があります。

社外取締役瀬戸明氏は、親会社である日清オイリオグループ株式会社の取締役であり、当社と同社は油脂製品等の売買および資金調達・運用取引があります。

社外監査役太田良猛氏は、親会社である日清オイリオグループ株式会社の理事であり、当社と同社は油脂製品等の売買および資金調達・運用取引があります。また、現在は株式会社ピエトロの社外監査役であり、当社と同社との間には化成製品等の売買取引があります。

社外監査役小林新氏は、親会社である日清オイリオグループ株式会社の常務執行役員であり、当社と同社は油脂製品等の売買および資金調達・運用取引があります。

当社と社外取締役および社外監査役との間には、特別な利害関係はありません。

ロ 社外取締役及び社外監査役が当社の企業統治において果たす機能及び役割

社外取締役には、経営者経験や経営者としての豊富な知見と見識に基づき、経営の透明性を確保しつつ当社の慣行にとらわれない企業社会全体を踏まえた客観的な判断を下して頂いております。

社外監査役には、経営者経験や長年にわたる財務・経理業務の経験者としての豊富な知見と見識に基づき、経営の透明性を確保しつつ当社の慣行にとらわれない企業社会全体を踏まえた客観的な判断を下して頂いております。

ハ 社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針の内容及び社外取締役及び社外監査役の選任状況に関する当社の考え方

社外取締役および社外監査役の選任にあたり、当社からの独立性に関する基準又は方針はありませんが、上記理由によりそれぞれ選任しております。

ニ 社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、経営企画室、総務部、業務監査室等の管理部門が窓口となり、随時、内部統制の整備・運用状況を含む各種報告・情報提供等を行う体制をとっております。

社外監査役は、常勤監査役を通じて、情報の共有化を図っており、それを業務監査室、経営企画室、総務部等の管理部門が補助する体制をとっております。また、監査役と業務監査室は、緊密な連携を保ち、意見および情報の交換を行い、効果的・効率的な監査を実施しております。

④ 役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	46	30	—	7	8	6
監査役 (社外監査役を除く。)	12	9	—	—	3	2
社外役員	1	1	—	—	0	2

(注) 1 取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役に対する使用人分給与は含まれておりません。

2 役員報酬限度額は、取締役年額84,000千円以内（使用人兼務取締役の使用人分給与は除く）、監査役年額15,600千円以内であります。（平成19年6月21日 定時株主総会）

3 上記報酬等の額には、当期において役員退職慰労引当金として計上した12百万円（取締役4名、監査役2名）を含んでおります。

4 期末現在の人員数は取締役7名、監査役3名であります。なお、報酬の額には、無報酬の取締役2名、監査役1名を含めず、平成25年6月20日定時株主総会終結の時をもって退任した取締役2名、監査役1名を含んでおります。

ロ 提出会社の役員ごとの報酬等の総額等

報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

⑤ 株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 11銘柄
 貸借対照表計上額の合計額 139,280千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度
 特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	104,000	58,032	取引関係維持強化
花王(株)	11,724	36,109	取引関係維持強化
伊藤忠食品(株)	5,000	18,925	取引関係維持強化
ミヨシ油脂(株)	31,000	4,929	取引関係維持強化
テイカ(株)	11,000	3,135	取引関係維持強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	1,000	443	取引関係維持強化
レンゴー(株)	229	109	取引関係維持強化

(注) ミヨシ油脂(株)、テイカ(株)、三井住友トラスト・ホールディングス(株)及びレンゴー(株)は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。上位7銘柄(非上場株式を除く全保有銘柄)について記載しております。

当事業年度
 特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	104,000	58,968	取引関係維持強化
花王(株)	11,724	42,874	取引関係維持強化
伊藤忠食品(株)	5,000	17,625	取引関係維持強化
ミヨシ油脂(株)	31,000	4,619	取引関係維持強化
テイカ(株)	11,000	3,201	取引関係維持強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	1,000	466	取引関係維持強化
レンゴー(株)	229	126	取引関係維持強化

(注) ミヨシ油脂(株)、テイカ(株)、三井住友トラスト・ホールディングス(株)及びレンゴー(株)は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下であります。上位7銘柄(非上場株式を除く全保有銘柄)について記載しております。

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式
 該当事項はありません。

⑥ 会計監査の状況

会計に関する事項の監査のため、会計監査人として有限責任監査法人トーマツと監査契約を締結し、公正な監査を受けております。有限責任監査法人トーマツおよびその業務執行社員と当社の間には、特別な利害関係は存在しません。当期の会計監査業務に携わっている公認会計士の氏名等については、下記のとおりであります。

指定有限責任社員 業務執行社員：山口弘志氏、千崎育利氏

会計監査業務に係る補助者：公認会計士 5 名、会計士補等 2 名、その他 1 名

⑦ 取締役会で決議できる株主総会決議事項

イ 自己株式の取得

当社は、「会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができます。」旨を定款で定めております。これは、機動的な資本政策の遂行を可能とすることを目的とするものであります。

ロ 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元ができるよう、取締役会の決議により毎年9月30日を基準日として会社法第454条第5項に定める中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

⑧ 取締役の定数

当社は、「当会社に取締役12名以内を置く。」旨を定款で定めております。

⑨ 取締役の選任の決議要件

当社は、「取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う。取締役の選任決議は、累積投票によらないものとする。」旨を定款で定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前事業年度		当事業年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	21	—	21	—
計	21	—	21	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前事業年度

該当事項はありません。

当事業年度

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前事業年度

該当事項はありません。

当事業年度

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

該当事項はありません。

第5 【経理の状況】

1 財務諸表の作成方法について

当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づき作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより監査を受けております。

3 連結財務諸表について

当社には子会社がありませんので、連結財務諸表は作成しておりません。

4 財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての的確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準設定主体等の行う研修へ参加するなど、財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

1 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年 3月31日)	当事業年度 (平成26年 3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,023	32,126
受取手形	※4 45,843	74,328
売掛金	※3 2,320,392	※3 2,352,331
有価証券	821	816
商品及び製品	216,515	237,455
原材料及び貯蔵品	105,330	138,286
前払費用	5,860	7,481
繰延税金資産	49,591	45,372
短期貸付金	※3 320,942	※3 244,157
その他	11,263	61,169
流動資産合計	3,108,583	3,193,524
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	※2 770,185	※2 699,915
構築物（純額）	67,952	63,550
機械及び装置（純額）	※2 172,470	※2 168,344
工具、器具及び備品（純額）	17,274	21,347
土地	※2 1,919,093	※2 1,919,093
リース資産（純額）	52,915	47,358
建設仮勘定	34,677	8,443
有形固定資産合計	※1 3,034,569	※1 2,928,053
無形固定資産		
ソフトウェア	29,149	11,872
その他	5,429	5,106
無形固定資産合計	34,579	16,979
投資その他の資産		
投資有価証券	133,083	139,280
繰延税金資産	115,291	117,800
その他	7,940	7,838
貸倒引当金	△657	△657
投資その他の資産合計	255,658	264,261
固定資産合計	3,324,807	3,209,294
資産合計	6,433,391	6,402,819

(単位：千円)

	前事業年度 (平成25年 3 月31日)	当事業年度 (平成26年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	※4 64,241	60,403
買掛金	※3 1,359,809	※3 1,232,987
リース債務	19,961	19,999
未払金	※3 655,735	※3 579,727
未払法人税等	86,543	91,922
預り金	3,822	3,595
前受収益	600	600
賞与引当金	55,848	58,634
役員賞与引当金	5,346	4,132
その他	80,982	34,594
流動負債合計	2,332,890	2,086,598
固定負債		
リース債務	36,149	30,238
退職給付引当金	341,090	368,005
役員退職慰労引当金	47,760	25,180
その他	9,717	9,519
固定負債合計	434,718	432,943
負債合計	2,767,608	2,519,542
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,299,104	1,299,104
資本剰余金		
資本準備金	1,165,353	1,165,353
資本剰余金合計	1,165,353	1,165,353
利益剰余金		
利益準備金	188,221	188,221
その他利益剰余金		
別途積立金	100,000	100,000
繰越利益剰余金	884,056	1,097,229
利益剰余金合計	1,172,277	1,385,450
自己株式	△6,442	△6,938
株主資本合計	3,630,292	3,842,969
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	35,489	40,308
評価・換算差額等合計	35,489	40,308
純資産合計	3,665,782	3,883,277
負債純資産合計	6,433,391	6,402,819

②【損益計算書】

(単位：千円)				
	前事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)	
売上高				
売上高	※7	9,484,854	※7	9,616,642
売上原価				
製品期首たな卸高		215,138		216,515
当期商品仕入高		13,773		18,685
当期製品製造原価	※7	8,145,353	※7	8,243,007
合計		8,374,264		8,478,208
製品期末たな卸高		216,515		237,455
差引		8,157,749		8,240,753
他勘定振替高	※2	2,017	※2	2,648
他勘定受入高	※1	4,133	※1	4,345
売上原価合計	※3	8,159,865	※3	8,242,450
売上総利益		1,324,989		1,374,191
販売費及び一般管理費	※4, ※5	976,588	※4, ※5	967,441
営業利益		348,400		406,750
営業外収益				
受取利息	※7	402	※7	303
有価証券利息		0		0
受取配当金		4,628		4,497
仕入割引		3,480		3,940
受取地代家賃		2,691		2,533
その他		2,193		1,623
営業外収益合計		13,396		12,899
営業外費用				
支払利息	※7	106	※7	36
売上割引		423		311
その他		1		7
営業外費用合計		531		355
経常利益		361,266		419,294
特別損失				
固定資産除却損	※6	99	※6	689
特別損失合計		99		689
税引前当期純利益		361,167		418,604
法人税、住民税及び事業税		151,946		156,282
法人税等調整額		△10,722		332
法人税等合計		141,224		156,615
当期純利益		219,942		261,989

【製造原価明細書】

		前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)		当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I 材料費		5,143,749	63.1	5,271,413	64.0
II 労務費		1,024,842	12.6	1,000,068	12.1
III 経費					
減価償却費		121,198		88,311	
外注・委託工賃		580,852		623,385	
その他		1,274,710		1,259,827	
経費合計		1,976,761	24.3	1,971,525	23.9
当期総製造費用		8,145,353	100.0	8,243,007	100.0
当期製品製造原価		8,145,353	—	8,243,007	—

(注) 原価計算の方法は、工程別による総合原価計算方式を採用しております。

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,299,104	1,165,353	1,165,353	188,221	100,000	712,934	1,001,155
当期変動額							
剰余金の配当						△48,820	△48,820
当期純利益						219,942	219,942
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	—	—	—	171,121	171,121
当期末残高	1,299,104	1,165,353	1,165,353	188,221	100,000	884,056	1,172,277

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△5,919	3,459,694	15,552	15,552	3,475,246
当期変動額					
剰余金の配当		△48,820			△48,820
当期純利益		219,942			219,942
自己株式の取得	△523	△523			△523
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			19,937	19,937	19,937
当期変動額合計	△523	170,598	19,937	19,937	190,535
当期末残高	△6,442	3,630,292	35,489	35,489	3,665,782

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			
		資本準備金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計
					別途積立金	繰越利益剰余金	
当期首残高	1,299,104	1,165,353	1,165,353	188,221	100,000	884,056	1,172,277
当期変動額							
剰余金の配当						△48,816	△48,816
当期純利益						261,989	261,989
自己株式の取得							
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)							
当期変動額合計	—	—	—	—	—	213,172	213,172
当期末残高	1,299,104	1,165,353	1,165,353	188,221	100,000	1,097,229	1,385,450

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	△6,442	3,630,292	35,489	35,489	3,665,782
当期変動額					
剰余金の配当		△48,816			△48,816
当期純利益		261,989			261,989
自己株式の取得	△496	△496			△496
株主資本以外の項目 の当期変動額(純額)			4,818	4,818	4,818
当期変動額合計	△496	212,676	4,818	4,818	217,495
当期末残高	△6,938	3,842,969	40,308	40,308	3,883,277

④【キャッシュ・フロー計算書】

	(単位：千円)	
	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前当期純利益	361,167	418,604
減価償却費	163,371	127,110
退職給付引当金の増減額（△は減少）	24,461	26,915
役員退職慰労引当金の増減額（△は減少）	9,610	△22,580
賞与引当金の増減額（△は減少）	△426	2,786
役員賞与引当金の増減額（△は減少）	486	△1,213
受取利息及び受取配当金	△5,031	△4,802
支払利息	106	36
固定資産除却損	99	689
売上債権の増減額（△は増加）	△172,055	△60,424
たな卸資産の増減額（△は増加）	△355	△53,895
その他の資産の増減額（△は増加）	1,706	△2,297
仕入債務の増減額（△は減少）	25,704	△132,208
その他の負債の増減額（△は減少）	△10,687	△96,261
小計	398,155	202,459
利息及び配当金の受取額	5,031	4,802
利息の支払額	△106	△36
法人税等の支払額	△133,615	△150,380
営業活動によるキャッシュ・フロー	269,464	56,843
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△70,480	△62,253
短期貸付金の純増減額（△は増加）	△127,579	76,784
投資活動によるキャッシュ・フロー	△198,059	14,530
財務活動によるキャッシュ・フロー		
リース債務の返済による支出	△22,279	△21,936
配当金の支払額	△48,972	△48,842
自己株式の純増減額（△は増加）	△523	△496
財務活動によるキャッシュ・フロー	△71,775	△71,275
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△370	98
現金及び現金同等物の期首残高	33,214	32,844
現金及び現金同等物の期末残高	※1 32,844	※1 32,942

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券

……償却原価法(定額法)

その他有価証券

時価のあるもの

……決算期末日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定)

時価のないもの

……移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

通常の販売目的で保有するたな卸資産

総平均法による原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

……定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建 物 15～47年

機械及び装置 8～10年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

……定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

……リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

4 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については、貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員の賞与の支出に充てるため、当事業年度における支給見込額に基づき計上しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産に基づき当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、「役員退職慰労金規程」(内規)に基づく期末要支給額を計上しております。

5 キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期的な投資であります。

6 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は税抜方式を採用しております。

(会計方針の変更)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

従来、有形固定資産（建物およびリース資産を除く）の減価償却方法は定率法を採用しておりましたが、当事業年度より定額法に変更しております。

この変更は、当事業年度より親会社である日清オイリオグループ株式会社が有形固定資産の減価償却の方法を定額法へ統一することを契機に、当社の有形固定資産の使用状況の見直しを行った結果、有形固定資産の使用方法がより安定的なものへと変化していることが明らかになってきたことに対応するものであります。

この結果、従来の方策によった場合と比べ、当事業年度の減価償却費は21,459千円減少し、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益がそれぞれ20,920千円増加しております。

(表示方法の変更)

(貸借対照表関係)

前事業年度において、独立掲記しておりました「無形固定資産」の「水道施設利用権」と「電話加入権」、また、「投資その他の資産」の「敷金」、「流動負債」の「未払消費税等」、「固定負債」の「長期預り保証金」は、金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度より「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「無形固定資産」に表示していた「水道施設利用権」1,778千円、「電話加入権」3,651千円は、「その他」5,429千円として、また、「投資その他の資産」に表示していた「敷金」5,649千円、「その他」2,290千円は、「その他」7,940千円として、「流動負債」に表示していた「未払消費税等」26,653千円、「その他」54,328千円は、「その他」80,982千円として、「固定負債」に表示していた「長期預り保証金」9,717千円は、「その他」9,717千円としてそれぞれ組み替えております。

なお、当該変更は、財務諸表規則第29条、第33条、第50条、第53条にそれぞれ基づくものであります。

(貸借対照表関係注記)

前事業年度において、「関係会社に対する資産及び負債」に注記しておりました「流動資産（その他）」は金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度においては注記しておりません。なお、前事業年度の「流動資産（その他）」は2,285千円であります。

なお、当該変更は、財務諸表規則第39条に基づくものであります。

(損益計算書関係注記)

前事業年度において、「販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額」に注記しておりました「その他の販売直接費」と「役員報酬」及び「賞与」は金額的重要性が乏しくなったため、当事業年度においては、主要な費目として注記しておりません。なお、前事業年度の「その他の販売直接費」は56,421千円、「役員報酬」は51,159千円、「賞与」は24,539千円であります。

なお、当該変更は、財務諸表規則第85条に基づくものであります。

(退職給付関係)

「退職給付に関する会計基準」（企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。）及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。）を当事業年度より適用し（ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。）、（退職給付関係）注記の表示方法を変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、（退職給付関係）の注記の組替えは行っておりません。

(有価証券明細表)

財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

※ 1 有形固定資産の減価償却累計額

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
有形固定資産減価償却累計額	2,337,503千円	2,227,732千円

※ 2 圧縮記帳額

国庫補助金等により有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額及びその内訳は以下のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
圧縮記帳額	2,717,191千円	2,700,128千円
(うち、建物)	938,616千円	938,616千円
(うち、機械及び装置)	1,029,916千円	1,012,853千円
(うち、土地)	748,658千円	748,658千円

※ 3 関係会社に対する資産及び負債

区分掲記されたもの以外で各科目に含まれているものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
売掛金	230,592千円	228,037千円
短期貸付金	320,942千円	244,157千円
買掛金	207,581千円	129,882千円
未払金	340,990千円	338,710千円

※ 4 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が、期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
受取手形	2,961千円	—
支払手形	2,442千円	—

(損益計算書関係)

※ 1 他勘定受入高の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
一般管理費	4,133千円	4,345千円

※ 2 他勘定振替高の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
販売費及び一般管理費 (広告宣伝費)	2,017千円	2,648千円

※ 3 通常の販売目的で保有する棚卸資産の収益性の低下による簿価切下額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
売上原価	1,662千円	3,644千円

※ 4 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
運賃諸掛	214,794千円	222,133千円
給料	255,471千円	245,776千円
賞与引当金繰入額	27,830千円	28,447千円
役員賞与引当金繰入額	5,346千円	4,132千円
退職給付費用	23,408千円	19,068千円
役員退職慰労引当金繰入額	9,610千円	12,300千円
減価償却費	41,288千円	37,987千円
おおよその割合		
販売費	28%	30%
一般管理費	72%	70%

※ 5 一般管理費に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
一般管理費	141,947千円	148,357千円

※ 6 固定資産除却損の内容は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
建物	—	404千円
機械及び装置	99千円	285千円
工具、器具及び備品	—	0千円
合計	99千円	689千円

※ 7 関係会社に関する項目

各科目に含まれている関係会社に対するものは、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
売上高	2,568,455千円	2,456,188千円
受取利息	399千円	301千円
原材料仕入高	2,295,856千円	2,201,703千円
支払利息	106千円	36千円

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	12,222,080	—	—	12,222,080

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	16,842	1,174	—	18,016

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 1,174株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月21日 定時株主総会	普通株式	48,820	4	平成24年3月31日	平成24年6月22日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年6月20日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	48,816	4	平成25年3月31日	平成25年6月21日

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	12,222,080	—	—	12,222,080

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	18,016	1,287	—	19,303

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりであります。

単元未満株式の買取りによる増加 1,287株

3 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月20日 定時株主総会	普通株式	48,816	4	平成25年3月31日	平成25年6月21日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成26年6月18日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	48,811	4	平成26年3月31日	平成26年6月19日

(キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 1 現金及び現金同等物の期末残高と貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
現金及び預金勘定	32,023千円	32,126千円
有価証券勘定	821千円	816千円
現金及び現金同等物	32,844千円	32,942千円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

所有権移転外ファイナンス・リース取引

① リース資産の内容

- ・有形固定資産 主として、フォークリフト及び営業車等（車両運搬具）及び本社・工場における通信機器等（工具、器具及び備品）であります。

② リース資産の減価償却の方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとする定額法を採用しております。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、一時的な余資は安全性の高い金融資産及び親会社がグループ各社に提供するCMS（キャッシュ・マネジメント・システム）の利用により資金の調達・運用（返済）を行っております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されています。また、貸付金は、短期貸付金のみで内容は、親会社がグループ各社に提供するCMS（キャッシュ・マネジメント・システム）の利用による資金運用です。投資有価証券である株式は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されています。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日です。また、営業債務は、流動性リスクに晒されています。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、与信管理規程に従い、各事業部門が取引先ごとの期日管理及び残高管理を行うとともに、総務部において、主な取引先の信用状況を年に一回把握することにより、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減をはかっております。

② 市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、投資有価証券である株式について、総務部において定期的に把握された時価等を取締役・執行役員に報告するなかで、保有状況を継続的に見直しております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部門からの報告に基づき、総務部が月次で資金繰計画を作成することにより、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

特記事項はありません。

(5) 信用リスクの集中

当事業年度の決算日現在における営業債権のうち58%が特定の大口顧客に対するものであります。

2 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表に含めておりません（（注2）を参照ください。）。

前事業年度(平成25年3月31日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	32,023	32,023	—
(2) 受取手形	45,843	45,843	—
(3) 売掛金	2,320,392	2,320,392	—
(4) 短期貸付金	320,942	320,942	—
(5) 投資有価証券 其他有価証券	121,683	121,683	—
資産計	2,840,884	2,840,884	—
(1) 支払手形	64,241	64,241	—
(2) 買掛金	1,359,809	1,359,809	—
(3) 未払金	655,735	655,735	—
(4) 未払法人税等	86,543	86,543	—
負債計	2,166,329	2,166,329	—

当事業年度(平成26年3月31日)

(単位：千円)

	貸借対照表計上額	時価	差額
(1) 現金及び預金	32,126	32,126	—
(2) 受取手形	74,328	74,328	—
(3) 売掛金	2,352,331	2,352,331	—
(4) 短期貸付金	244,157	244,157	—
(5) 投資有価証券 其他有価証券	127,880	127,880	—
資産計	2,830,825	2,830,825	—
(1) 支払手形	60,403	60,403	—
(2) 買掛金	1,232,987	1,232,987	—
(3) 未払金	579,727	579,727	—
(4) 未払法人税等	91,922	91,922	—
負債計	1,965,041	1,965,041	—

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2)受取手形、(3)売掛金、並びに(4)短期貸付金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

なお、有価証券は其他有価証券として保有しており、これに関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負 債

(1) 支払手形、(2)買掛金、(3)未払金、並びに(4)未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	平成25年3月31日	平成26年3月31日
非上場株式	11,400	11,400

上記については、市場価格がなく、かつ将来キャッシュ・フローを見積もることなどができず、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(5)投資有価証券 その他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

前事業年度(平成25年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内
現金及び預金	32,023
受取手形	45,843
売掛金	2,320,392
短期貸付金	320,942
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの	—
合計	2,719,201

当事業年度(平成26年3月31日)

(単位：千円)

	1年以内
現金及び預金	32,126
受取手形	74,328
売掛金	2,352,331
短期貸付金	244,157
投資有価証券 その他有価証券のうち満期があるもの	—
合計	2,702,944

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前事業年度(平成25年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	116,754	59,975	56,778
(2) 債券			
社債	—	—	—
(3) その他	—	—	—
小計	116,754	59,975	56,778
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	4,929	6,599	△1,670
(2) 債券			
社債	—	—	—
(3) その他	—	—	—
小計	4,929	6,599	△1,670
合計	121,683	66,575	55,108

当事業年度(平成26年3月31日)

区分	貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの			
(1) 株式	123,261	59,975	63,285
(2) 債券			
社債	—	—	—
(3) その他	—	—	—
小計	123,261	59,975	63,285
貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの			
(1) 株式	4,619	6,599	△1,980
(2) 債券			
社債	—	—	—
(3) その他	—	—	—
小計	4,619	6,599	△1,980
合計	127,880	66,575	61,305

(退職給付関係)

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社の退職給付制度は、勤続期間が1年以上の従業員が退職する場合、社内の退職金規程に基づき、退職時までの勤続年数や給与等に基づき算定された退職金を支払うこととなっております。この退職金の支払いに充てるため、必要資金の内部留保の他に、確定給付企業年金制度(規約型)を採用し、外部拠出を行っております。

2 退職給付債務に関する事項

(1) 退職給付債務(千円)	△393,679
(2) 年金資産(千円)	52,589
(3) 退職給付引当金(千円)	△341,090

3 退職給付費用に関する事項

退職給付費用(千円)	49,932
------------	--------

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

当社は退職給付費用の算定にあたり、簡便法を採用しておりますので、基礎率等については記載しておりません。

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社の退職給付制度は、勤続期間が1年以上の従業員が退職する場合、社内の退職金規程に基づき、退職時までの勤続年数や給与等に基づき算定された退職金を支払うこととなっております。この退職金の支払いに充てるため、必要資金の内部留保の他に、確定給付企業年金制度(規約型)を採用し、外部拠出を行っております。

なお、当社が有する確定給付企業年金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

退職給付引当金の期首残高	341,090	千円
退職給付費用	41,009	千円
退職給付の支払額	△8,890	千円
制度への拠出額	△5,203	千円
退職給付引当金の期末残高	368,005	千円

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

積立型制度の退職給付債務	426,034	千円
年金資産	△58,028	千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	368,005	千円
退職給付引当金	368,005	千円
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	368,005	千円

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	41,009	千円
----------------	--------	----

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (平成25年3月31日)	当事業年度 (平成26年3月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	121,508千円	131,010千円
賞与引当金	21,222千円	20,873千円
役員退職慰労引当金	17,002千円	8,964千円
その他	32,906千円	28,839千円
繰延税金資産小計	192,639千円	189,687千円
評価性引当金	△8,137千円	△5,517千円
繰延税金資産合計	184,501千円	184,169千円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	△19,618千円	△20,997千円
繰延税金負債合計	△19,618千円	△20,997千円
繰延税金資産純額	164,883千円	163,172千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないこととなりました。これに伴い、当事業年度の繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用した法定実効税率は、平成26年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異について、前事業年度の38.0%から35.6%に変更しております。

なお、この変更による影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象としているものであります。

当社は、本社に事業部を置き、取り扱う製品について戦略を立案し、事業活動を展開しております。従って、当社は、事業部を基礎としたセグメントから構成されており、「油脂事業」及び「化成品事業」の2つを報告セグメントとしております。

なお、各報告セグメントに属する製品及びサービスの種類は次のとおりであります。

セグメント	主たる事業の内容
油脂事業	コーン油・大豆油・米油・ぶどう油・ひまわり油・なたね油等、各種植物油の精製・充填・販売
化成品事業	家庭用・業務用・工業用各種洗剤及び化粧品・医薬部外品、殺菌洗浄剤等、各種界面活性剤の製造販売

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「重要な会計方針」における記載と概ね同一であります。報告セグメント利益は、売上高から売上原価及び販売費を差引いた数値であります。

会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更に記載のとおり、従来、有形固定資産（建物およびリース資産を除く）の減価償却方法は定率法を採用しておりましたが、当事業年度より定額法に変更しております。

この変更は、当事業年度より親会社である日清オイリオグループ株式会社が有形固定資産の減価償却の方法を定額法へ統一することを契機に、当社の有形固定資産の使用状況の見直しを行った結果、有形固定資産の使用方法がより安定的なものへと変化していることが明らかになってきたことに対応するものであります。

この結果、従来の方法によった場合と比べ、当事業年度のセグメント利益が、「油脂事業」で2,083千円、「化成品事業」で16,492千円、「その他」で423千円それぞれ増加しております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報
前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	油脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,794,463	4,335,904	9,130,368	354,486	9,484,854
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,794,463	4,335,904	9,130,368	354,486	9,484,854
セグメント利益	292,492	619,280	911,772	137,704	1,049,476
セグメント資産	980,637	4,435,046	5,415,683	169,138	5,584,822
その他の項目					
減価償却費	9,864	101,118	110,982	11,099	122,082
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	—	52,604	52,604	—	52,604

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、物流業務を含んでおります。

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント			その他	合計
	油脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	4,604,656	4,657,936	9,262,593	354,049	9,616,642
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	4,604,656	4,657,936	9,262,593	354,049	9,616,642
セグメント利益	271,097	687,650	958,747	129,483	1,088,230
セグメント資産	870,650	4,659,420	5,530,071	144,601	5,674,672
その他の項目					
減価償却費	5,311	74,325	79,636	9,485	89,122
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	2,184	72,637	74,821	4,226	79,048

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、物流業務を含んでおります。

4 報告セグメント合計額と財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

売上高	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	9,130,368	9,262,593
「その他」の区分の売上高	354,486	354,049
セグメント間取引消去	—	—
財務諸表の売上高	9,484,854	9,616,642

(単位:千円)

利益	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	911,772	958,747
「その他」の区分の利益	137,704	129,483
全社費用	△701,076	△681,479
財務諸表の営業利益	348,400	406,750

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位:千円)

資産	前事業年度	当事業年度
報告セグメント計	5,415,683	5,530,071
「その他」の区分の資産	169,138	144,601
全社資産	848,569	728,147
財務諸表の資産合計	6,433,391	6,402,819

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない本社事務所の建物等であります。

(単位:千円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		財務諸表計上額	
	前事業年度	当事業年度	前事業年度	当事業年度	前事業年度	当事業年度	前事業年度	当事業年度
減価償却費	110,982	79,636	11,099	9,485	41,288	37,987	163,371	127,110
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	52,604	74,821	—	4,226	35,721	8,443	88,325	87,492

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、主に本社事務所の設備投資額及び報告セグメントに配分前の建設仮勘定であります。

【関連情報】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
花王株式会社	2,732,358	化成品事業
日清オイリオグループ株式会社	2,568,455	油脂事業及び化成品事業

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦以外の外部顧客への売上高がないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

本邦以外に所在している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
花王株式会社	3,038,251	化成品事業
日清オイリオグループ株式会社	2,456,188	油脂事業及び化成品事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	日清オイリオグループ(株)	東京都中央区	16,332,128	食品、油脂、 油脂等の製造 販売	(被所有) 直接51.9% 間接 1.9%	当社製品の 販売及び原 材料の仕入 資金の調達・運用 役員の兼任	油脂、化成品の製造販売、物流業務の受託等	2,568,455	売掛金 その他	230,592 2,285
							資金の運用(注2)	207,317	短期貸付金	320,942
							利息の受取	399	—	—
							原材料の仕入等	2,295,856	買掛金 未払金	207,581 340,990
							資金の調達(注2)	59,727	—	—
							利息の支払	106	—	—
主要株主	花王(株)	東京都中央区	85,424,265	パーソナルケア製品、ハウスホールド製品、サニタリー他製品、油脂製品、化成品の製造販売	(被所有) 直接11.2% (所有) 直接 0.0%	当社製品の 販売及び原 材料の仕入	化成品の製造・販売等	2,732,358	売掛金	1,211,508
							薬品等の仕入	1,069,733	買掛金	465,359

取引条件及び取引条件の決定方針等

植物油脂、化成品の販売及び物流業務については、市場価格、総原価を勘案して当社希望価格を提示し、毎期価格交渉の上、一般的取引条件と同様に決定しており、薬品等の仕入及び原材料の仕入等については毎期価格交渉の上、一般的取引条件と同様に決定しております。なお、資金の調達・運用にかかる利率については、市場金利等を勘案して、合理的に決定しております。

- (注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高(短期貸付金は除く。)には消費税等が含まれております。
- 2 期中において短期的に反復して調達・運用(返済)が行われているため、取引金額は月末平均残高を記載しております。

(2) 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	日清商事(株)	東京都中央区	99,000	食料品他卸	(被所有) 直接1.7% (所有) 直接1.6%	当社製品の販売	油脂、化成品の製造・販売等	351,823	売掛金	63,703
同一の親会社を持つ会社	(株)日清商会	栃木県宇都宮市	75,000	油脂・油脂及び同加工製品の販売	(被所有) 直接0.1%	当社製品の販売	油脂、化成品の製造・販売等	341,294	売掛金	81,362

取引条件及び取引条件の決定方針等

植物油脂、化成品の販売については、市場価格、総原価を勘案して当社希望価格を提示し、毎期価格交渉の上、一般的取引条件と同様に決定しております。

- (注) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

日清オイリオグループ(株) (東京証券取引所及び大阪証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

当事業年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 関連当事者との取引

財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(1) 財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
親会社	日清オイリオグループ(株)	東京都中央区	16,332,128	食品、油脂、油粕等の製造販売	(被所有) 直接51.9% 間接 1.9%	当社製品の販売及び原材料の仕入 資金の調達・運用 役員の兼任	油脂、化成品の製造販売、物流業務の受託等	2,456,188	売掛金 その他	228,037 2,283
							資金の運用(注2)	240,586	短期貸付金	244,157
							利息の受取	301	—	—
							原材料の仕入等	2,201,703	買掛金 未払金	129,882 338,710
							資金の調達(注2)	64,520	—	—
							利息の支払	36	—	—
主要株主	花王(株)	東京都中央区	85,424,265	パーソナルケア製品、ハウスホールド製品、サニタリー他製品、油脂製品、化成品の製造販売	(被所有) 直接11.2% (所有) 直接 0.0%	当社製品の販売及び原材料の仕入	化成品の製造・販売等	3,038,251	売掛金	1,398,026
							薬品等の仕入	1,089,107	買掛金	452,916

取引条件及び取引条件の決定方針等

植物油脂、化成品の販売及び物流業務については、市場価格、総原価を勘案して当社希望価格を提示し、每期価格交渉の上、一般的取引条件と同様に決定しており、薬品等の仕入及び原材料の仕入等については每期価格交渉の上、一般的取引条件と同様に決定しております。なお、資金の調達・運用にかかる利率については、市場金利等を勘案して、合理的に決定しております。

- (注) 1 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高(短期貸付金は除く。)には消費税等が含まれております。
- 2 期中において短期的に反復して調達・運用(返済)が行われているため、取引金額は月末平均残高を記載しております。

(2) 財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
同一の親会社を持つ会社	日清商事(株)	東京都中央区	99,000	食料品他卸	(被所有) 直接1.7% (所有) 直接1.6%	当社製品の販売	油脂、化成品の製造・販売等	394,695	売掛金	74,283
同一の親会社を持つ会社	(株)日清商会	栃木県宇都宮市	75,000	油脂・油粕及び同加工製品の販売	(被所有) 直接0.1%	当社製品の販売	油脂、化成品の製造・販売等	338,212	売掛金	60,434

取引条件及び取引条件の決定方針等

植物油脂、化成品の販売については、市場価格、総原価を勘案して当社希望価格を提示し、毎期価格交渉の上、一般的取引条件と同様に決定しております。

(注) 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

日清オイリオグループ(株) (東京証券取引所に上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	300.37円	318.23円
1株当たり当期純利益金額	18.02円	21.47円

(注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎

	前事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当事業年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
当期純利益(千円)	219,942	261,989
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(千円)	219,942	261,989
普通株式の期中平均株式数(千株)	12,204	12,203

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

⑤ 【附属明細表】
 【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却 累計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物	1,397,988	2,522	34,614	1,365,896	665,981	47,857	699,915
構築物	308,348	—	—	308,348	244,798	4,402	63,550
機械及び装置	1,470,159	49,554	210,810	1,308,903	1,140,559	28,865	168,344
工具、器具及び備品	116,249	9,708	3,998	121,960	100,613	5,565	21,347
土地	1,919,093	—	—	1,919,093	—	—	1,919,093
リース資産	125,555	15,302	17,719	123,138	75,779	20,859	47,358
建設仮勘定	34,677	16,588	42,822	8,443	—	—	8,443
有形固定資産計	5,372,073	93,677	309,965	5,155,785	2,227,732	107,549	2,928,053
無形固定資産							
ソフトウェア	109,045	1,960	—	111,005	99,132	19,236	11,872
その他	14,085	—	3,001	11,083	5,977	323	5,106
無形固定資産計	123,130	1,960	3,001	122,088	105,109	19,560	16,979
長期前払費用	413	7,131	3,614	3,930	—	—	3,930
繰延資産							
—	—	—	—	—	—	—	—
繰延資産計	—	—	—	—	—	—	—

- (注) 1 当期増加額のうち主なものは、次のとおりであります。
 機械及び装置 化成品工場 製造・充填包装設備 49,554千円
- 2 当期減少額のうち主なものは、次のとおりであります。
 建物 油脂工場 充填工場建屋改造 33,480千円
 機械及び装置 油脂工場 充填設備 137,263千円
- 3 長期前払費用は、前払保守料及び前払保険料の期間配分に係るものであり、減価償却と性格が異なるため、当期償却額の算定には含めておりません。

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	—	—	0.4	—
1年以内に返済予定の長期借入金	—	—	—	—
1年以内に返済予定のリース債務	19,961	19,999	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	—	—	—	—
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	36,149	30,238	—	平成27年4月1日～ 平成31年8月2日
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	56,111	50,238	—	—

(注) 1 「平均利率」については、期中平均残高に対する加重平均利率を記載しております。なお、リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を定額法により各事業年度に配分しているため、記載をしておりません。

2 リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の貸借対照表日後5年内における1年ごとの返済予定額の総額

1年超2年以内 (千円)	2年超3年以内 (千円)	3年超4年以内 (千円)	4年超5年以内 (千円)
13,690	8,900	4,467	2,600

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	657	—	—	—	657
賞与引当金	55,848	58,634	55,848	—	58,634
役員賞与引当金	5,346	4,132	5,346	—	4,132
役員退職慰労引当金	47,760	12,300	34,880	—	25,180

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

① 現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	389
預金	
当座預金	10,521
普通預金	5,754
通知預金	15,018
郵便振替貯金	441
預金小計	31,736
計	32,126

② 受取手形

相手先別内訳

相手先	金額(千円)
トーカイ・パッケージングシステム株式会社	30,972
フマキラー株式会社	17,691
赤田善株式会社	12,643
株式会社クレオ	4,653
株式会社エフ・エム・アイ	3,295
その他	5,071
計	74,328

期日別内訳

期日	金額(千円)
平成26年4月満期	22,626
平成26年5月	28,211
平成26年6月	12,214
平成26年7月	11,276
計	74,328

③ 売掛金
 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
花王株式会社	1,398,026
日清オイリオグループ株式会社	228,037
辻製油株式会社	82,967
日清商事株式会社	74,283
三井食品株式会社	67,095
その他	501,921
計	2,352,331

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

(A) 当期首残高 (千円)	(B) 当期発生高 (千円)	(C) 当期回収高 (千円)	(D) 当期末残高 (千円)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A)+(B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A)+(D)}{2} - \frac{(B)}{365}$
2,320,392	10,097,151	10,065,212	2,352,331	81.1	84.5

(注) 消費税等の会計処理は税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

④ 商品及び製品

区分	金額(千円)
油脂(コーン油、大豆油他)	127,656
化成品(粒状洗剤、液状洗剤他)	109,798
計	237,455

⑤ 原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
油脂	6,211
化成品	132,074
計	138,286

⑥ 支払手形
 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
キョーラク株式会社	17,464
大日製罐株式会社	6,798
渡辺ケミカル株式会社	5,054
ADEKAクリーンエイド株式会社	4,430
山下印刷紙器株式会社	3,776
その他	22,878
計	60,403

期日別内訳

期日	金額(千円)
平成26年4月満期	19,872
平成26年5月	16,742
平成26年6月	16,199
平成26年7月	7,587
計	60,403

⑦ 買掛金
 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
花王株式会社	452,916
日清オイリオグループ株式会社	129,882
辻製油株式会社	70,443
株式会社カーギルジャパン	47,863
太田油脂株式会社	41,628
その他	490,253
計	1,232,987

⑧ 未払金
 相手先別内訳

相手先	金額(千円)
日清オイリオグループ株式会社	338,710
水澤化学工業株式会社	28,101
日清物流株式会社	24,399
株式会社大伸	21,404
株式会社伏水	11,413
その他	155,698
計	579,727

⑨ 退職給付引当金

区分	金額(千円)
退職給付債務	426,034
年金資金	△58,028
計	368,005

(3) 【その他】

当事業年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当事業年度
売上高 (千円)	2,411,780	4,810,110	7,264,459	9,616,642
税引前 四半期(当期)純利益金額 (千円)	117,181	238,938	338,795	418,604
四半期(当期)純利益金額 (千円)	75,089	146,936	205,817	261,989
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	6.15	12.04	16.87	21.47

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1株当たり 四半期純利益金額 (円)	6.15	5.89	4.83	4.60

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り・ 売渡し	
取扱場所	(特別口座) 大阪市中央区北浜四丁目5番33号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	—
買取・売渡手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によっ て電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載 して行う。なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは 次のとおりであります。 http://www.settsu-seiyu.co.jp/company/koukoku.html
株主に対する特典	毎年3月31日現在、1,000株以上を保有する株主に対して、2,000円相当の自社商品を 贈呈しております。

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができない。
 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
 株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利
 株主の有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求する権利

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度 第203期(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)平成25年6月21日近畿財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成25年6月21日近畿財務局長に提出。

(3) 四半期報告書及び確認書

第204期第1四半期(自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)平成25年8月8日近畿財務局長に提出。

第204期第2四半期(自 平成25年7月1日 至 平成25年9月30日)平成25年11月13日近畿財務局長に提出。

第204期第3四半期(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)平成26年2月12日近畿財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)の規定に基づく
臨時報告書

平成25年6月24日近畿財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年 6 月10日

攝 津 製 油 株 式 会 社

取 締 役 会 御 中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 山 口 弘 志 ⑩

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 千 崎 育 利 ⑩

＜財務諸表監査＞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている攝津製油株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第204期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、キャッシュ・フロー計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、攝津製油株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する事業年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

会計方針の変更に記載されているとおり、会社は、従来、有形固定資産（建物およびリース資産を除く）の減価償却方法として定率法を採用していたが、当事業年度より定額法に変更している。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

＜内部統制監査＞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、攝津製油株式会社の平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、攝津製油株式会社が平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは監査の対象には含まれていません。